



福島

いちご栽培の6次産業化を!
県内の地域経済活性化
「食」の風評被害払拭へ

マルナカファーム

マルナカファーム(福島県二本
松市油井字無地ノ内、遊佐憲雄
社長、0243・24・8001、
<https://marunakafarm.co.jp>)
は、系列会社で総合建設業とし
て経営を維持しつつ、地元が復
興を成し遂げるため、子どもた
ちの安心・安全な未来をつくる
ために、農業事業へ進出するこ
とを決意し創業した。

数年前まで20軒以上あった近
隣のいちご農家がたった1軒し
かないことを知り、
2017年9月より
「いちご栽培」を開
始する。同社の経営
安定および地元二本
松市の観光資源とな
るべく「観光いちご
園」を計画、今年3
月3日にオープンし
た。「生産、加工、
販売」まで自社で一
貫して行う6次産業
化をめざす。



今年オープンしたいちご園

問題と判った。そんな折に二本
松信用金庫から人気酒造を紹介
され、福島農商工ファンド事業
へ挑戦し採択され、いちごのリ
キュール「Koichigo」が誕生、
「International Taste Institute」
2019年度優秀味覚賞を受賞
した。現在では、6次化として
「いちごクッキー」「ドライフ
ルーツ」も開発中である。

道の駅などでいち
ごを販売するうち、
「味ではなく形が悪
い」、「ブランドイン
グに伴う売れ残り」
などの販売余剰分が
約10%を占め、収益
を圧迫していること
がいちご農家最大の



余剰分のいちごを活用したリキュール「Koichigo」

福島県内の地域経
済活性化や福島県
が抱える『食』の
風評被害払拭に1
mm、1cmでも役に
立てていれば嬉し
い限り」と社長は
やりがい語る。
「農業とは、正に
『食』そのもの。
高齢化・後継者不
足から衰退しつつ
ある日本の農業技
術に、私たちが土
木工事を通して25
年間培ったノウハ
ウを併せ、人が生
きていく上で一番
大事な『食』を守
る事業へ進めてい
きたい」と展望は
広がる。